

DVD 薬学教育実務実習 指導のポイント

「共に学び 共に育つ」

～輝け！未来の薬剤師たち～

内容解説

平成21年8月

日本薬学会 薬学教育改革大学人会議

実務実習指導システム作り委員会

DVD 薬学教育実務実習 指導のポイント
「共に学び 共に育つ ～輝け！未来の薬剤師たち～」
内容解説

日本薬学会 薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会

●はじめに

本 DVD の内容は、11 週間の薬局実習を約 30 分のドラマとして描いたものです。まずは、参加型の実務実習を通して学生が成長していく姿をドラマとしてお楽しみください。

本 DVD では、「実務実習指導のポイント」として“実習の進め方”や“指導方法”などを各章で例示しています。「指導のポイント」には指導薬剤師だけでなく、大学教員にとっても役立つ内容が含まれているはずです。学内で実務実習の“指導体制”や“連携体制”について協議される際に、まず本 DVD をご覧いただき、実習のイメージを持った上で議論されてみてはいかがでしょうか。本 DVD はグループで観て、その後で意見交換や協議することをお勧めしています。DVD の内容について意見交換することにより、実務実習の指導内容や方法についてより具体的な議論ができることと思います。本 DVD はドラマ仕立てですので、現実と異なる内容や設定の部分はご容赦いただき、実務実習に生かせる部分を議論のポイントや参考にしていただければ幸いです。

本 DVD は「解説付き」、あるいは「解説なし」で再生できます。「解説付き」は“全編を見る”以外に、“章別に見る”こともできます。「解説付き」は指導者用ですので、大学教員同士、あるいは大学教員と指導薬剤師と一緒にご覧ください。実習開始後に教員が施設を訪問される際には、予め実習時期に応じた章を“章別に見る”機能を使ってご覧になってから訪問されてはいかがでしょうか。一方、「解説なし」は学生に見せることを想定したものです。学生が薬局実習の内容を具体的にイメージするのに有用だと思いますので、ぜひオリエンテーションなどでご使用ください。

DVD 中のテロップや解説では伝えることができなかった各場面のより詳細な説明を、「内容解説」として以下にまとめました。全体をドラマとして楽しんでいただいた後、内容解説を参照しながら改めて各章を繰り返しご覧ください。各場面の背景や制作意図がより深く理解していただけることと存じます。

以上、各大学や実習施設において本 DVD を実務実習に向けた準備や実習指導の際の参考ツールとして活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本 DVD は日本薬学会が日本薬剤師会と共同制作したものです。また、本 DVD の一部は、日本薬学会が平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）を受けて制作しました。本 DVD の内容などに関するご意見・ご感想は、日本薬学会の次のメールアドレス kyoiku@pharm.or.jp までお寄せください。

●ドラマの設定背景

➤配役

・鈴木薬局 指導薬剤師	鈴木（40歳）	山中 誠也
・鈴木薬局 薬剤師	竹下（45歳）	佐藤 しのぶ
・薬学実習生 四谷薬科大学5年	井上（23歳）	上領 幸子
・薬学実習生 渋谷大学5年	小池（23歳）	奥田 隆仁
・患者	安藤（55歳）	星野 亘
・患者	宮崎	女性（エキストラ）
・大学教員		男性2名（エキストラ）
・医薬品卸 A、B		男性2名（エキストラ）

➤薬局

撮影場所の関係上少し広くなりましたが、設定は地域に根差した“かかりつけ薬局”を想定しました。認定実務実習指導薬剤師が鈴木薬剤師（男性）で、竹下薬剤師（女性）との2名が勤務薬剤師です。鈴木薬剤師は実務実習に対して前向きですが、竹下薬剤師は実務実習の学生受入に少し不安を抱いています。

事務員などのスタッフは、本DVDの内容と関連性が乏しいため割愛しました。

ひと月当たりの処方せん枚数は1,000枚程度で、一般用医薬品も取り扱っている薬局としました。

➤実習生

異なる大学から男女一名ずつの学生がはじめて実習を行うこととしました。

背景が異なる二名の学生がともに実習することの利点を考えてみました。

実務実習に対して小池君は自信過剰気味、井上さんは不安を抱えた設定です。

➤指導薬剤師から実習生へのフィードバック

指導薬剤師が実習生にフィードバック（形成的評価）を行う場面を中心に描きました。

学生にフィードバックする時間を指導薬剤師が特別に設けることを示しているわけではありません。

むしろ、フィードバックの内容に注目してください。

●イントロダクション：大学教員との事前打ち合わせ

事前打ち合わせのためにそれぞれの大学の指導教員と一緒に実習施設を訪問する設定としました。

情報の共有化の例として

- ・大学教員から指導薬剤師へ：事前学習の実施内容、学生の紹介など
- ・指導薬剤師から大学教員へ：実務実習のスケジュールなど

●第一章「初日 まずはやってみよう！」

➤時期：初日

➤朝のオリエンテーション

会議室での打ち合わせ・自己紹介は撮影上の設定ですので、施設として会議室の必要性を示すものではありません。

- ・学生の服装：初日、小池君はネクタイ、井上さんは白のブラウスを着用しています。

以後は薬剤師の指示に従って、少しかジュアルな服装としました。

➤初日の午前中

場面にはありませんが、学生は薬局の概要について説明を受けた後、調剤室で調剤の流れを見学することとしました。調剤内規などの薬局内ルールは進行に応じて説明することとし、講義・説明は最小限にとどめることにしました。

➤初日の午後

場面では薬剤師による調剤業務が行われていませんが、患者が来局していない時間帯に実習を行うことを想定しているわけではありません。参加型実習を初日から実践するために、まずは「やってみよう」ということで、練習用の処方せんを用いた調剤を行う設定としました。薬学共用試験に合格していることから、初日に技能を確認することもできます。

- ・練習用処方せんの設定

処方日数が56日分と大学での事前学習のときより多い。

処方せんが見つらくて読みづらい：1枚の処方せんに多くの薬剤名が記載されている。

- ・練習用処方せんで調剤する際の実習生二人の対応の違いに気づきましたか？

小池君：自信過剰気味ですぐに暗算で調剤を実行しています。

自分のイメージ通りにいかないので少しいライラしています。

井上さん：事前学習で学んだ手順で調剤を行おうとしています。

錠剤数をメモ用紙で計算し、医薬品集で処方薬について確認します。そのため、小池君よりも調剤に時間がかかっています。

鈴木薬剤師による調剤鑑査の場面では、調剤が正確にできているか心配でのぞきこんでいます。

- ・調剤実習時の画面テロップ

指導薬剤師は学生に“実践”させ、学生が実施している様子を“観察”しています。

学生がどのくらいできるのかを確認し、初日の午後ですので、“調剤ができたこと”をポジティブフィードバックする設定としました。

- ・指導薬剤師の井上さんへの対応

指導薬剤師は井上さんの不安を共感的な態度で受けとめています。

●第2章「アイテムの管理」

➤時期：第一週

➤場面：「アイテムの管理」は、実務実習モデル・コアカリキュラムの方略からだけではイメージがつかみにくい項目であるため、実践例として取り上げました。

午前は「調剤」で、午後が「薬局アイテムの管理」の設定です。

➤実習の流れ

- ・「アイテムの管理」の実習場面として“検品”業務を取りあげました。

- ・検品業務という実務を通して、薬局アイテムの種類、保管、規制区分などを総合的に学習できることを例示しています。

- ・検品という業務を行いながら、学生は方略の P101, P104, P105 に含まれる複数の SBOs について学習できます。

- ・指導薬剤師は講義や説明から始めるのではなく、実際の検品の場면을“見学”させ、学生が重要なポイントを自ら考える機会を提供します。場面としては省略されていますが、見学実施後、指導薬剤師は学生がポイントを的確に把握できているか確認します。

- ・「アイテムの管理」以外でも、初めての内容は“見学”から始めることを提案しています。

- ・この DVD では、厚生労働省のまとめ「薬剤師養成のための薬学教育実務実習の実施方法について」（平成 19 年 5 月）を参考に、麻薬の取り扱いは“見学”にとどめています。なお、同まとめでは「実際に行われる実務実習においては、個々の薬学生の知識・技能・態度や受入病院・薬局における指導・監督体制などの実状を的確に判断することにより、学習方法の区分を適宜変更することが指導者側に求められることになる」とされています。

- ・麻薬管理についても、納品のタイミングを利用して、学生に学習の機会を提供しています。

- ・学生は検品を行いながら、自ら医薬品価格の違いにも気づきます。

- ・向精神薬などの規制医薬品の取り扱いに関する実習場面はありませんが、検品後に医薬品を棚などに収納させる作業を行わせることにより、規制医薬品の保管に関して学習することができます。

➤指導に関するポイント

- ・実習内容が毎日ステップアップの様子を表現しました。
- ・参加型実習として、学生ができるようになったことは、学生に任せることとしました。
- ・内容のステップアップは「アイテムの管理」だけでなく、他の内容でも同様です。
- ・実習スケジュールは学生の進捗状況に応じて調整します。

➤学生に関するポイント

- ・翌日の予定を毎日確認し、不明な点は指導薬剤師に質問することを示しました。
- ・井上さんは小池君にまだ慣れず、丁寧な言葉で話しかけています。
- ・小池君は「アイテムの管理」について興味を持ってないでいましたが、自ら高額医薬品の存在を知り、タイミングよく医薬品の回収があることを教えられ、検品やロット管理の重要性に気づきます。
(テロップ「一つ一つの仕事の意味を考えさせましょう」)
- ・小池君の変化に注目してください。

●第3章「調剤」

➤時期：第2週

◆場面1【小池君の調剤ミス】：実習終了後に小池君が自習しています。小池君の態度が変化してきていることに注目してください。自習の場所は薬局内である必要はありません。

➤小池君が調剤ミスをして竹下薬剤師の前で反省している場面の“背景”に注目

- ・「アオリール」と「アオマール」の取り違いに注意する掲示物があります。
- ・インシデントレポートはクリアファイルに入れてすぐに取り出せる位置に置いてあります。

➤指導に関するポイント

- ・指導薬剤師がすべてを担当する必要はなく、他の薬剤師も指導薬剤師と協力して指導できます。
- ・鑑査で調剤ミスを発見した後の、竹下薬剤師の指導に注目してください。
- ・1分間フィードバック (Six Micro-Skills for Clinical Teaching)
 1. 実習生の考えを聴く Get a commitment
 2. 実習生が述べる根拠を聴く Probe for supporting evidence
 3. 一般論を示す Teach general rules
 4. できたことをほめる Reinforce what was done right
 5. まちがいを正す Correct mistakes
 6. さらなる学習を勧める Identify next learning steps

➤学生に関するポイント

- ・調剤に関する実習が2週目に入り、小池君は慣れが出てきてミスをしてしまいます。
- ・ミスをしたときは、反省するだけでなく、ミスの原因と具体的な対応策を考えます。
- ・自分自身の調剤ミスが患者に重大な影響を及ぼす可能性があったことに気づき、調剤に対する態度が変化し、実習終了後の自習につながっています。

◆場面2【井上さんの散剤調剤】

- ・井上さんは処方せんを受け取ったあと、メモ用紙に秤量する量を計算しています。
- ・2週目に入り、井上さんは不安がやわらいできていることにも注目してください。
- ・小池君に対する言葉遣いや態度も第2章と比べて変化してきています。

➤指導に関するポイント（小児科における調剤）

- ・“処方せんの奥深さ”について学習する場면을例示しました。
- ・学生が実施した内容については、この場面の竹下薬剤師のように、理解度を口頭で確認します。
- ・この場面で井上さんは患者の年齢から推測すると量が多いことに気づきました。そこで竹下薬剤師は井上さんの気づきに応じて、年齢だけではなく体重からも用量を確認する必要性を助言しました。

➤ハラスメントについて

- ・指導薬剤師からの食事などへの誘いも学生の受け取り方によってはハラスメントとなる場合があることを紹介しました。

➤大学教員の訪問（2～3週目）

- ・大学教員は、円滑に実務実習がスタートできているかなど実習の進捗状況を、指導薬剤師と学生に確認します。
- ・場面設定では、学生が実習環境に慣れてきて、医療の現場で患者に配慮できるようになってきたことを指導薬剤師が教員に報告しています。

●第4章「服薬指導（見学～ロールプレイ）」

➤時期：第4週～

➤患者の同意

1. 包括的に同意を得る

- ・学生が実習中であることを“掲示物”で知らせる。

DVDでの例：

「本日、薬学部学生が薬学教育の一環として実務実習をおこなっております。来局の皆様のご理解をお願いいたします。 鈴木薬局」

掲示物は撮影の都合上、カウンター上に掲示しましたが、掲示の場所は問いません。

2. 個別に同意を得る

- ・患者に対して直接的にかかわる場合には、毎回、個別に同意を得ることが必要です。
- ・この場面では、まず薬剤師が患者に説明して「見学についての同意」を得ています。
- ・次に、学生も自己紹介をして、患者から「見学についての同意」を得ています。

➤服薬指導に関する実習の進め方

- ・“見学”、“ロールプレイ”、“実践”のサイクルを繰り返すことで、目標への到達度を高めます。
- ・この場面では学生同士でロールプレイを行い、互いにフィードバックをしています。
- ・学生が一人の場合には、薬局スタッフや訪問した大学教員がロールプレイの患者役として参加し、フィードバックしましょう。

➤大学教員の参加

- ・この場面に大学教員は登場しませんが、実習中期に薬局を訪問した教員は、ロールプレイの患者役を務めることにより、学生の目標到達度を確認することができるでしょう。

●第5章「カウンターで学ぶ（一般用医薬品への対応）」

➤時期：第4週～（DVDでの場面設定としては）

➤指導に関するポイント

- ・一般用医薬品については「アイテムの管理」で取扱い医薬品について学習し、その後はカウンターでの見学、ロールプレイを行い、実践に備えておきます。
- ・学生の準備状況が整っていれば、この場面のように実践の機会をできるだけ作ってみましょう。
- ・この場面では、鈴木薬局に薬歴がある安藤さんが、一般用医薬品の購入のために来局する設定としました。そのため購入時には、症状を聴き、薬歴の確認も行っています。
- ・本場面は小池君にとって初めての来局者対応ですので、薬剤師が一般用医薬品の種類の選択を行い、学生は商品の説明を行っています。
- ・学生が直接患者や来局者に対応する場合は、毎回自己紹介の上、“患者や来局者から同意”を得ることが必要です。

●第6章「服薬指導（実践）」

➤時期：第5週～

➤指導に関するポイント

- ・学生が直接患者に対応する場合は、毎回自己紹介の上、“患者から同意”を得ることが必要です。
- ・この場面では、一般用医薬品を購入した安藤さんを小池君が継続して担当する設定にしています。
- ・本場面で鈴木薬剤師は小池君の服薬説明を最後まで見守っていますが、状況に応じた対応が必要となる場合もあるため、必ず薬剤師が同席して実施しましょう。この場面では、“服薬状況”を小池君が確認しなかったため、鈴木薬剤師が安藤さんに直接尋ねています。
- ・鈴木薬剤師からのフィードバックは、ここでもPNPで行っていることに注意してください。

➤学生に関するポイント

- ・安藤さんとの再会ですので、小池君は笑顔で対応しています。
- ・服薬指導入門（P321）の場面ですが、小池君は初めての服薬説明だったので、一方的に説明してしまいます。
- ・同僚である小池君の服薬説明を見学している井上さんは、小池君が一方的な説明になっていることに気づいています。

●第7章「疑義照会」

➤時期：第7週～

➤患者の同意

- ・DVDでは再来局した安藤さんの処方せんを小池君が受け取り、調剤後に呼び出していますが、服薬説明の実施に際しては、再度、同意を得ています。

➤疑義照会の手順

- ・この場面では、安藤さんからの訴えを医師に確認すべきかどうかについての判断は薬剤師が行っています。
- ・医師への問い合わせの場面では、実習生から照会があるかもしれないことを予め処方医に伝え、既に了解を得ている設定としました。
- ・最初は薬剤師が電話をかけ、学生が照会を行うことについて医師より了解を得ます。その後、学生に電話を代わり、学生が用件を伝えます。
- ・医師からの回答は、必ず薬剤師が確認します。

➤ファーマシューティカルケアの実践（問題解決のプロセス）

- ・学生が患者との対話から得られた情報に基づいて、問題点に気づき、問題解決に向けて適切な対応をとることができるよう指導していきましょう。
- ・本場面では小池君が安藤さんへの対応を重ねることによって成長していく姿を描きましたが、必ずしも同じ患者への対応が必要であるわけではありません。色々な患者に対応する機会をもつことで、同じように成長する機会が得られることでしょう。

●第8章「総合実習」

➤時期：第10週～

- ・最後の1週間は薬局業務の流れに応じて、これまで学んできたことを総合的に実践させてみましょう。
- ・この期間中に目標に対する最終的な到達度を確認します。
- ・大学教員も訪問時には指導薬剤師と協力して学生の目標到達度を確認してみましょう。

【参考資料】

- 下記のパワーポイントファイルは、実習施設の指導薬剤師を対象に本DVDを紹介するプレゼンテーション例として作成したものです。必要に応じてご活用ください。

『薬学教育実務実習指導のポイント』 の正しい使い方について

日本薬学会
薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会

DVD作成の趣旨

- 実務実習に際して知っておくと良い指導のポイントをドラマの中に盛り込みました。
- 薬局実務実習11週間を約30分で体験できます。
- 学生への関わり方や実習の進め方を例示しました。
- 長期実習で学生が成長していく姿を描いてみました。

こんなことはありませんか？

- 学生を受け入れることに不安がある。
(Don't worry!)
- 長期実務実習を具体的にイメージできない。
(Imagine!)
- ワークショップ(WS)を受講したけど、指導のポイントは分からない。
(Let's try!)
- 学生を受け入れる準備がまだできていない。
(You can!)

このDVDの効能・効果

- 抗不安作用
(学生との接し方がわかります！)
- 準備促進作用(準備することがわかります！)
- 教育作用(いろいろな気づきがあります！)
- 中枢刺激作用(やれそうかな！?)
- やる気誘発作用(やってみよう！)

尚、効果が現れるまで
繰り返し見てください。

副作用

- 重大な勘違いとして、DVD通りに実施しなければいけないと重圧がかかることがあります。DVDの内容は例示にすぎません。

相加・相乗作用

- 「指導の手引き」と併用すると効果的です。
- 薬剤師仲間で見ると議論すれば新たなアイデアが浮かびます。
- 職場の皆さんで見ると実習への理解が深まります。

用法・用量

- 実習前に何回も見てください！
- 実習中も進行に合わせて見て下さい
- 進捗状況に応じ、回数は適宜増…減はありません…
- 初回：解説なし(31分)1回、さらに解説あり(38分)1回
- 二回目以降：用時、回数に制限なし

DVDの正しい使い方

(副作用を防ぐために)

- 講習会等で見たあとで、各章ごとにつけた「指導のポイント」について話しあってみてください。
- DVDに登場する薬局の設定は一例です。まずは学生が成長するドラマを楽しんでください。

まもなく、開演です！



4. 「実務実習記録」記載項目と

作成プロセスの例示

「実務実習記録」

記載項目と作成プロセスの例示

平成 21 年 8 月

日本薬学会 薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会

「実務実習記録」記載項目と作成プロセスの例示

日本薬学会 薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員会

本委員会では、実務実習の全期間を通して学生、大学教員、指導薬剤師の三者が情報を共有でき、また学生の実習中の成長を確認できるような“記録”のあり方について検討を重ねてきました。“記録”のフォーマットについては大学や地区単位で準備が進められていることから、本委員会では“記載項目”について提案することとしました。また、“記録”の名称は、“ポートフォリオ”という用語がまだ普及していない現状を考慮して「実務実習記録」と呼ぶことにしました。以下に、「実務実習記録」に記載する項目を例示するとともに、作成プロセス例を紹介します。今後、各大学・各地区で「実務実習記録」について検討する際の参考にしていただければ幸いです。

「実務実習記録」記載項目の例示

1. 自己紹介欄（*を付けた項目は必須）

【学生の個人情報】

- 氏名*
- 生年月日
- 現住所
- 帰省先
- 連絡先住所：大学とする*
- 連絡先：学生担当教員（学生の連絡先を把握しておく）*
大学実務実習窓口（事務室など）*

【自己紹介等】

- 自己紹介
- 4年次までの学習について
 - ◆好きな分野：コース（領域）ユニット（科目）
 - ◆所属研究室
 - ◆総合薬学研究（卒業研究）のテーマ：
- 将来の希望
- 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか？）
- 実務実習に対する気持ち、想い、希望など（各実習前に記入）
 - ◆事前学習に対して
 - ◆病院実習に対して
 - ◆薬局実習に対して
- 実務実習における学生個人としての目標（各実習前に記入）
実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsとは別に、個人としての目標を設定する。
 - ◆事前学習における目標
 - ◆病院実習における目標
 - ◆薬局実習における目標

- 個人としての目標の到達度
 - 個々の学生のニーズに応じた実務実習を実施するために実習の途中や終了時に確認する
例えば、病院実習や薬局実習であれば、4週目、8週目、終了時のレポートなど
 - ◆事前学習における目標について
 - ◆病院実習における目標について
 - ◆薬局実習における目標について
- 実務実習の自己評価（各実習終了時に記入）
 - ◆事前学習で成長したこと、今後の課題など
 - ◆病院実習で成長したこと、今後の課題など
 - ◆薬局実習で成長したこと、今後の課題など

【健康に関して】

- 健康診断記録（実施日、特記事項）
- 予防接種・免疫学的検査の記録
- その他の特記事項

【加入保険について】

- 損害賠償保険
- 傷害保険

【守秘義務に関する誓約書】*

- 「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」
- 「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」

2. 担当教員からのメッセージ

【病院実習・薬局実習に関する希望・期待など】

- 学生に向けて
 - 指導薬剤師に向けて
- 例) 事前学習において特に優れていたところ、あるいは少し不得手なところを指導薬剤師に伝え、実習スケジュールや内容について希望を伝える。

3. 実務実習スケジュール

- 実務実習事前学習
- 病院実習
- 薬局実習

4. 実習日誌

- ・学生の成長記録として位置づける。到達度の評価は、例えば下記の“週報”を利用する。
- ・記載量が過多にならないように注意し、日誌が学生にとって過度の負担にならないよう配慮する。

【日誌記載項目の例示】

- 「一日の目標」：前日の実習の反省に基づく学生個人としての目標を記入
- 実習内容
- 実習内容が該当する SB0s（指導薬剤師が毎日確認する必要はなし）
- 「一日の目標」の達成状況、大切だと思ったこと、気づいたことなど。
- 指導薬剤師からのコメント

※指導薬剤師からのフィードバック内容を学生が記入することも有効と考えられる。

5. 週報

- ・評価に関する記録の例として、本委員会では“週報”を紹介する。
- ・一週間を振り返っての実習進捗状況と評価を記入し、指導薬剤師と大学教員が確認する。

【週報記載項目の例示】

- 実習内容
- SB0s 到達度
 - 学生自己評価：目標到達度の記録とコメント
 - 指導薬剤師による評価：目標到達度の記録とコメント
- SB0s への到達度チェック
 - 紙媒体：“実務実習指導・管理システム”の評価入力画面を使用
- 学生担当教員からのコメント

6. 実習中の学習成果

- ・実習中の学習成果物（レポート、薬剤情報提供書、インシデントレポートなど）も実務実習記録の一部として取り扱う。

「実務実習記録」作成プロセスの例示

1. 「実務実習記録」の作成

- “実務実習事前学習” から “実務実習” が開始するととらえて、“実務実習事前学習” の開始直前に「実務実習記録」の作成を開始する。
- 個々の学生が実務実習期間中を通して指導を受ける教員をここでは“学生担当教員”と呼び、学生担当教員は“実務実習事前学習”開始前に決めることとした。
- 「実務実習記録」には学生の自己紹介欄を設け、学生は担当教員と面談を行いながら自己紹介欄に記入する。
- “自己紹介欄”の記載項目（*を付けた項目は必須）
 - ・【学生データ】として記入する事項
 - 氏名*
 - 生年月日
 - 現住所、帰省先
 - 連絡先住所：大学とする*
 - 連絡先：学生担当教員（学生の連絡先を把握しておく）・大学実務実習窓口（事務室など）*
 - ・【自己紹介等】として記入する事項
 - 自己紹介
 - 4年次までの学習について
 - ◆好きな分野：コース（領域）ユニット（科目）
 - ◆所属研究室
 - ◆総合薬学研究（卒業研究）のテーマ：
 - 将来の希望
 - 実務実習事前学習に対する気持ち、想い、希望など
 - 実務実習事前学習に対する学生個人としての目標（各実習前に記入）
実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsとは別に、個人としての目標を設定する。

2. 実務実習事前学習中

- 事前学習中の成長記録と学生担当教員の役割については、今年度の取り組みの成果を大学が積極的に公表し、大学間で情報が共有され、次年度以降の取り組みに反映されることが期待される。
- 本委員会において提案された事前学習中の「実務実習記録」に関する取り組みを例示として以下に紹介する。
 - ・学内で実施する事前学習中も学生は「実務実習記録」として日誌、週報などを書く。
（日誌、週報の記載項目例は、上記参照）
 - ・学生担当教員は定期的に学生の成長を日誌や週報などで確認し、必要なフィードバック（形成的評価）を行う。
 - ・個人としての目標の到達度についても事前学習の途中で確認する。
 - ・事前学習中から学生が日誌や週報を書き、学生担当教員が定期的に成長を確認することで、病院・薬局での実務実習中の担当教員による指導が円滑に実施されることが期待できる。
 - ・事前学習中の「実務実習記録」に日誌や週報が加われば、実習施設の指導薬剤師は当該学生の事前学習中の成長過程を確認できる。

3. 実務実習事前学習の終了後

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入する。
(あるいは、学生が記入後、担当教員と面談する)
 - 事前学習における個人としての目標への到達度
 - 事前学習で成長したこと、今後の課題など
 - 目指す薬剤師像 (どのような薬剤師になりたいか?)
 - 次の実習 (病院あるいは薬局実習) に対する気持ち、想い、希望など
 - 次の実習 (病院あるいは薬局実習) における個人としての目標

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員とともに確認しながら記載する。
 - 学生の健康に関して
 - ◆健康診断記録 (実施日、特記事項)
 - ◆予防接種・免疫学的検査の記録
 - ◆その他の特記事項
 - 加入保険について
 - ◆損害賠償保険
 - ◆傷害保険
 - 守秘義務に関する誓約書*
 - ◆「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する説明文書」
 - ◆「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報保護、病院・薬局等の法人機密情報の保護に関する誓約書」

- 「実務実習記録」に「担当教員からの病院実習・薬局実習に関する希望・期待」などの欄を設け、大学教員から学生および指導薬剤師に向けたメッセージを記載する。
- 担当教員からの病院実習・薬局実習に関する希望
 - 例) 事前学習において特に優れていたところ、あるいは少し不得手なところを指導薬剤師に伝え、実習スケジュールや内容の検討を依頼する。

4. 「実務実習記録」を用いた指導薬剤師との打合せ

- 学生担当教員は実務実習記録を利用して指導薬剤師に学生紹介を行う。
 - ・ 大学および学生個人の実習内容に関する希望を指導薬剤師に伝え、実習内容について確認する。
 - ・ 実習スケジュールを調整し、スケジュール表を実務実習記録に追加する。
- 教員は指導薬剤師に実習中の実務実習記録への記入やフィードバック方法について説明する。
- 実習施設独自の注意点があれば、実務実習記録に記載する。

5. 病院実習あるいは薬局実習中

- 「日誌」: 学生は実習中の成長記録として日誌 (A4 用紙一枚程度) を書く。
【日誌記載項目】
 - 「一日の目標」: 前日の実習の反省に基づく学生個人としての目標を記入
 - 実習内容

- 実習内容が該当する SBOs（指導薬剤師が毎日確認する必要はなし）
- 「一日の目標」の達成状況、大切だと思ったこと、気づいたことなど。
- 指導薬剤師からのコメント
 - ※指導薬剤師からのフィードバック内容を学生が記入することも有効と考えられる。

- 「週報」：学生は実習中の評価に関する記録として週報を書く。
 - ・一週間を振り返っての実習進捗状況と評価を記入し、指導薬剤師と大学教員が確認する。

【週報記載項目】

- 実習内容
- SBOs 到達度
 - 学生自己評価：目標到達度の記録とコメント
 - 指導薬剤師による評価：目標到達度の記録とコメント
- SBOs への到達度チェック
 - 紙媒体：“実務実習指導・管理システム”の評価入力画面を使用
- 学生担当教員からのコメント

- 個人としての病院実習あるいは薬局実習の目標への到達度を確認する。
 - ・個々の学生のニーズに応じた実務実習を実施するために重要である。
 - ・例えば、4週目や8週目に実務実習記録に記載し、指導薬剤師と学生担当教員が確認してフィードバックする。

6. 病院実習あるいは薬局実習の終了時

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入する。
 - （あるいは、学生が記入後、担当教員と面談する）
 - 当該実習における個人としての目標への到達度
 - 当該実習で成長したこと、今後の課題など
 - 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか？）
 - 次の実習（病院あるいは薬局実習）に対する気持ち、想い、希望など
 - 次の実習（病院あるいは薬局実習）における個人としての目標

7. 次の実務実習に向けて

- 上記の4と5のステップを繰り返す。
 - ・学生担当教員は「実務実習記録」を利用して、学生のこれまでの学習状況を指導薬剤師に伝える。

8. 実務実習の終了時

➤ 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入する。

(あるいは、学生が記入後、担当教員と面談する)

- 当該実習における個人としての目標への到達度
- 当該実習で成長したこと、今後の課題など
- 目指す薬剤師像 (どのような薬剤師になりたいか?)
- これからの学習に対する気持ち、想い、希望など